

■評価結果一覧

		現位置 ①現庁舎エリア	候補A ②名鉄西尾線東側エリア	候補B ③安城駅・三河安城駅間エリア	候補C ④三河安城駅南西エリア
安全性		緊急輸送道路からの距離、総合運動公園・消防署・警察署からの距離			
		3点/4点	2点/4点	1点/4点	3点/4点
利便性		鉄道駅からの距離、主要幹線道路からの距離、自転車道からの距離、各官公署からの距離			
		6点/6点	2点/6点	6点/6点	4点/6点
実現性	想定事業期間	8年	15年	18年	18年
	概算事業費	2点	1点	0点	0点
		290億円 (公園整備費除く)	334億円	334億円 (土地区画整理事業費除く)	334億円 (土地区画整理事業費除く)
	小計	2点	1点	1点	1点
		4点/4点	2点/4点	1点/4点	1点/4点
計画性	総合計画との整合	集約型市街地形成の方向性と合致	集約型市街地形成の方向性と概ね合致	集約型市街地形成の方向性と合致	集約型市街地形成の方向性と合致
	都市計画マスタープランとの整合	2点	1点	2点	2点
		マチナカ居住誘導の方向性と合致	マチナカ居住誘導の方向性と合致しない	マチナカ居住誘導の方向性と概ね合致	マチナカ居住誘導の方向性と概ね合致
	周囲とのつながり	2点	0点	1点	1点
	周囲との一体的な土地利用が可能	周囲との一体的な土地利用が可能	周囲との一体的な土地利用の可能性が著しく低い	周囲との一体的な土地利用の可能性が著しく低い	周囲との一体的な土地利用が可能
小計	2点	0点	0点	2点	
		6点/6点	1点/6点	3点/6点	5点/6点
合計点		19点/20点	7点/20点	11点/20点	13点/20点

■換算後 評価結果一覧 ※上記得点からの換算基準 満点(4点、6点)のうち 100%:A→4点、75%以上100%未満:B→3点、50%以上75%未満 :C→2点、25%以上50%未満 :D→1点、25%未満 :E→0点

安全性	3点/4点 (B)	2点/4点 (C)	1点/4点 (D)	3点/4点 (B)
利便性	4点/4点 (A)	1点/4点 (D)	4点/4点 (A)	2点/4点 (C)
実現性	4点/4点 (A)	2点/4点 (C)	1点/4点 (D)	1点/4点 (D)
計画性	4点/4点 (A)	0点/4点 (E)	2点/4点 (C)	3点/4点 (B)
合計点	15点/16点	5点/16点	8点/16点	9点/16点

■候補の優位性

現位置 > 候補C > 候補B > 候補A

■評価を踏まえた建設候補エリアの考察

	現位置 ①現庁舎エリア	候補A ②名鉄西尾線東側エリア	候補B ③安城駅・三河安城駅間エリア	候補C ④三河安城駅南西エリア
考察	<p>現庁舎が立地するJR安城駅周辺は古くから本市の中心であり、安城駅を核として市街地に人口が集積しているエリアである。庁舎周辺は、警察署や消防署をはじめとする官庁施設に加え、商工会議所やJAあいち中央などの地域経済組織が集積し、公共的機能の中心となっている。また、土地区画整理事業や土地の高度利用、交通網の再構築を見据えた既成市街地への再投資も活発に行われており、今後も本市を支える都市拠点として人口を集積させていくべきエリアとしてまちづくりが進められている。</p> <p>現庁舎エリアは、本市の人口重心に近く、安全性や利便性、実現性に優れている。また、法的手続き等が少ないことから、早期の庁舎整備が可能となる。早期の整備実現により、普段の市民利用はもとより、災害時の救助や復旧、情報収集といった防災拠点としての機能が発揮され、庁舎が、市民が安心して暮らせるまちの中核施設となることが期待される。また、既存の安城公園と一体的に整備できるため、市民が集い交流が生まれる場となることが期待される。</p>	<p>災害活動拠点となる総合運動公園に近く、災害時における総合運動公園との連携に優位性があるエリアである。</p> <p>庁舎整備区域のみで市街化編入し整備を行うため、比較的短い期間での庁舎整備が見込まれる。また、将来的には名鉄西尾線の鉄道立体交差の事業化や県道の新設、周辺道路網の整備により交通の円滑化が期待される。</p> <p>一方で、既成市街地とは鉄道により分断されているため、庁舎整備をきっかけとしたまちづくりへの波及効果が生じにくい立地条件となっており、周辺との一体的なまちづくりとなるよう方策を検討するなど計画性を高めることが求められる。</p> <p>現時点では整備用地を取得できる見通しは立っていない。また、現位置の跡地活用の検討が必要となる。</p>	<p>西三河の玄関口である新幹線三河安城駅にふさわしい都市空間の形成を目指すエリアである。駅を中心とした市街地に人口が高密度に集積し、比較的充実した都市機能が立地している。また、リニア中央新幹線の開業や新たな民間投資などによりポテンシャルが高まることを期待されるエリアである。</p> <p>庁舎整備を契機として土地区画整理事業が行われれば、庁舎だけでなく、他の都市機能の集積につながる民間投資を呼び込むことや、住宅系土地利用により一定の定住人口を確保することが期待される。</p> <p>一方で、安全性の面では、道路整備や各所との連携等、災害対応の体制を再構築する必要がある。また、予測される南海トラフ大地震等の災害に備えるため早期の庁舎整備が求められるが、土地区画整理事業を伴うことから整備に長期間を要することが懸念される。そのほか、将来的に人口減少が見込まれる中での市街地の拡大は、慎重な検討が求められる。</p> <p>現時点では整備用地を取得できる見通しは立っていない。また、現位置の跡地活用の検討が必要となる。</p>	<p>西三河の玄関口である新幹線三河安城駅から歩いて行くことのできる距離であり、日本デンマークの原風景となる田園風景と調和した住宅地等の形成を検討していくエリアである。</p> <p>安全性の評価が高いことから、このエリアで整備することで、災害時の対応力に優れた防災拠点となることが見込まれる。</p> <p>今後は、リニア中央新幹線の開業に伴う新幹線の利用環境の変化や、周辺で進行中の土地区画整理事業による定住促進により、この地域の活性化が期待される。これに加え、更なる土地区画整理事業を伴う庁舎整備が行われれば、都市機能の集積が期待される。</p> <p>一方で、予測される南海トラフ大地震等の災害に備えるため早期の庁舎整備が求められるが、土地区画整理事業を伴うことから整備に長期間を要することが懸念される。そのほか、将来的に人口減少が見込まれる中での市街地の拡大は、慎重な検討が求められる。</p> <p>現時点では整備用地を取得できる見通しは立っていない。また、現位置の跡地活用の検討が必要となる。</p>